

## 平成 26 年度通常(第 2 回)理事会議事録

日 時： 平成 26 年 9 月 6 日（土） 11：00～15：30

場 所： 夢の島マリーナ

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、森山雄一、中川千鶴子、鈴木修、斎藤渉、坂谷定生、平松隆、中澤信夫、川北達也、天辻康裕、相澤孝司、末木創造、平井昭光、森信和、大島茂樹、高間博之、山本嘉一、馬場益弘、岡村勝美、剥岩政次

以上 20 名

出席監事：齊藤威、児玉萬平、上野保

以上 3 名

オブザーバー：中村隆夫総務副委員長、柳澤康信広報委員長、永井真美環境委員長、増田開ルール委員長、川上宏レース委員長、名方 ORC 計測委員長、戸張房子国際委員長、豊崎謙広報委員、細川敬一事業開発委員、小山泰彦東京準備委員会副委員長

### 議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 20 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 26 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を鈴木修専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、平松隆、岡村勝美の両理事が任命された。

河野会長から、①2020 年東京オリンピック会場については、すでにいろいろと報道されているが最終決定ではない。ISAF とは、セーラーがオリンピック村に宿泊できること、東京にディンギーハーバーが存在していないこと、メディアに対して開催中心部でアピールできることを主張してきて認められている。防波堤では膨大な予算が必要になることなど経費等含めてもろもろの観点から東京都に抗議をしている。②文部科学省はスポーツ補助金をスポーツ庁（JSC）等一元化する方針を打ち出している。このことで競技団体の自己負担金をなくすことや 2020 年後もスポーツ振興を目指した取り組みをしている。重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

### <審議事項>

1) 第 69 回国民体育大会開催協力に対する感謝状

中村総務副委員長から資料に基づき、第 69 回国民体育大会開催協力に対する感謝状の推薦について説明があった。

国体委員会の推薦に基づき、海上自衛隊第 46 掃海艇、長崎市福田漁業協同組合、長崎市みなと漁業組合、長崎サンセットマリーナの 4 団体に、第 69 回国民体育大会開催協力に対する感謝状を贈呈するとの発言があった。

満場一致で承認された。

## 2) JSAF レース・オフィサー規程の改訂

川上レース委員長から資料に基づき、JSAF レース・オフィサー規程の改訂について説明があった。

前回理事会で JSAF レース・オフィサー規程の一部改定内容は、公益財団法人日本セーリング連盟の表記を JSAF に統一する、受験資格の推薦での記載統合、受験資格の要件での一部削除、更新のための要件等の一部改訂であるとの発言があった。

満場一致で承認された。

## 3) 特別加盟団体申請（逗子マリーナヨットクラブ）

中村総務副委員長から資料に基づき、逗子マリーナヨットクラブ特別加盟団体申請について説明があった。

前回理事会協議で説明したが、逗子マリーナヨットクラブから平成 26 年 6 月 1 日付で特別加盟団体申請があった。提出された会員名簿・団体の会則等・決算報告書は要件を満たしていることを確認しているとの発言があった。

満場一致で承認された。

## 4) 2020 東京オリンピック募金募集とボランティア募集

小山東京オリンピック準備委員会副委員長から資料に基づき、2020 東京オリンピック募金募集とボランティア募集について説明があった。

2020 年本大会及び国際大会を通じて世界に通用する IRO・IJ・IM を育てることはセーリング界にとってヒューマンレガシーと位置づけられる。しかしながら、人材育成には海外派遣等の費用負担が発生することから寄付金の協力をいただきたい。

また、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた JSAF 競技運営ボランティア登録を募集する。活動内容は、本大会や 2018 年・2019 年のテストイベントの競技運営ボランティアを目指し、日本各地で開催されるワールドなどの運営を通して研修することを予定としている。セーリング競技に関心がありボランティアを希望する方は、JSAF 会員登録を条件に、JSAF ホームページから登録いただくよう案内するとの発言があった。

森理事から、ボランティアに年齢制限はないのかとの質問があった。

小山委員から、年齢制限は定めていない。セーリング経験等があれば総合判断で最終決定をするとの回答があった。

斎藤常務理事から、寄付金は税額控除ではなく、所得税控除であるとの発言があった。

平松理事から、ボランティアはいつ頃まで募集するののかとの質問があった。

小山副委員長から、日本開催のワールドやプレオリ等の対応のためメ切を設定しないでギリギリまで募集するとの発言があった。

鈴木専務理事から、募金バナー等は近々に JSAF ホームページで公表するとの発言があった。

上野監事から、募金の使徒制限及び管理について質問があった。

森山副会長から、運営育成のための寄付で企業寄付金は別と理解している。

河野会長から、使途は IRO 養成の派遣費・講習会費等に限定するとの発言があった。

中澤理事から、目標額を年間数百万単位で設定していただきたいとの要望があった。

満場一致で承認された。

## 5) 平成 26・27 年度最高審判委員会委員候補者名簿

増田最高審判委員会事務局長から資料に基づき、平成 26.27 年度最高審判委員会委員候補者について説明があった。

河野会長と相談した結果、平成 26.27 年度最高審判委員会委員は、米澤一氏（留任）、篠田陽史氏（留任）、大谷たかを氏（留任）、青山篤氏（新任）、秋元和子氏（新任）の 5 名とした。定款第 41 条及び最高審判委員規則第 9 条に基づいて決定するとの発言があった。

満場一致で承認された。

## <協議事項>

### 1) 公式計測員規程改正案について

名方 ODC 計測委員長から資料に基づき、JSAF 公式計測員規程改定案ならびに JSAF ワンデザインクラス計測委員会業務処理要領改定案について提案があった。

本規程等の改訂の目的は、有効期日の明確化、資格失効に伴う事務処理の明確化、JSAF メンバー登録 4 年会員の再制度化により必要となる業務処理、公式計測員の更新認定料の明文化であるとの発言があった。

川北理事から、レースオフィシャルズの資格の会員確認については、統括処理対応できるシステムに総務委員会で検討していただきたいとの発言があった。

## <報告事項>

### 1) 総務委員会

中村総務副委員長から資料に基づき、総務委員会報告があった。

- ①平成 26 年度定期表彰（国体感謝以外）の募集を実施する。平成 26 年 11 月 28 日提出締め切りで、平成 26 年度 JSAF 定期表彰に係わる受賞候補者推薦書を各団体へ依頼する。なお、表彰は 2015 年 1 月 24 日開催の全国加盟団体代表者会議において表彰する。
- ②日体協の新たな「スポーツにおける暴力問題相談窓口」を設置ならびに「公認指導者制度並びに処分基準」を制定した。
- ③JSAF 会員管理システム改善検討では、新システムへのスムーズな移行を図るために、加盟団体から意見徴収をした。JSAF 会費代行手数料等の変更は次回理事会へ付議する。新システム稼働開始は 2015 年 2 月を想定している。
- ④JSAF 加盟団体が主催するレース以外の JSAF 公認・後援事業については、一旦総務委員会で受理し、可否を検討し、理事会へ付議し審議決定するとの発言があった。

森理事から、国体で暴言問題があることから整理していただきたいとの発言があった。

末木理事から、会員新システムに関する団体意見徴収は今後どうするか質問があった。

中村副委員長から、学生会員のまとめ払いなど業者へ追加要件をだして反映するようにするとの発言があった。

鈴木専務理事から、JJYU「ミキカップ」や浜名湖ジャンボリーなど普及レースについて総務委員会で検討していただきたいとの発言があった。

坂谷常務理事から、一定の基準を決定して総務委員会でルール化することが必要であるとの発言があった。

### 2) 平成 26・27 年度 IRO 候補者推薦委員会の構成について

川上レース委員長から資料に基づき、平成 26・27 年度 IRO 候補者推薦委員会の構成について報告があった。

ISAF の認定する IRO の資格認定申請をするものに、JSAF レース委員会小委員会である IRO 候補者推薦委員会を設置している。委員の構成は、推薦の適否判断において大所高所から見解をいただくことから専務理事を含めた 8 名とした。また、8 月 1 日現在の公認申請等新着教協一覧について発言があった。

### 3) 財政委員会関連報告

斎藤財政委員長から資料に基づき、平成 26 年度選手強化・環境・外洋支援および賛助会費入金状況について報告があった。

賛助会員は理事各位から賛同いただける企業を紹介いただきたい。また、JAL ネクストアスリート・マイルプロジェクトへの参画について、将来活躍できる選手の育成・強化に貢献・支援を行いたいと考える JAL マイレージバンク加入の会員が支援する競技を指

定、各自が保有するマイルから 2,000 マイル (2,000 円) を 1 口として寄付を行い、同額を JAL が加算して競技団体の次世代選手育成・強化に寄付をする制度である。当面の目標口数を 500 口 (100 万円) とするとの発言があった。

#### 4) 東京オリンピック準備委員会報告

戸張国際委員長から資料に基づき、「Sports for Tomorrow」について説明があった。

「Sports for Tomorrow」は、発展途上国におけるスポーツならびにオリンピック・ムーブメントの普及を企画のコンセプトとしている。連盟の取り組みとして、2020 東京オリンピックを契機に「アジアにおけるセーリング競技人口の普及とレベル向上」ならびに「アジアにおけるセーリング競技の運営スタッフの育成」を目標とし、アジアセーリング界における指導的地位を目指すこととした。JSAF 担当は国際委員会の荒川氏とし、本プロジェクトに係る外務省主催セミナーやスポーツフォートモローコンソーシアム (SFTC) に参加して情報収集を開始している。今後は予算措置も含めたプロジェクト支援や戦略的働きかけが必要であるとの発言があった。

#### 5) 普及指導者委員会報告

川北普及指導者委員長から資料に基づき、普及指導者委員会報告があった。

① バッチテスト資格のウィンドサーフィン実技検定追加について、平成 27 年度からウィンドサーフィン中級取得時に実技検定を義務付ける。実技検定方法は、JWA バッチテスト資格を所持していることで実技検定を免除する。また、JWA バッチテストを所持していない場合でも、過去にオリンピックや国体出場経験を持つ選手には登録手続きのみで認定される。②平成 27 年度公認コーチ・上級コーチの合計で約 45 名の募集をする。③平成 26 年度公認スポーツ指導者全国研修会の開催および参加者の募集があった。④国体艇種採用における廉価販売について発言があった。

#### 6) JSAF 新ホームページ開設ならびにスポンサーバナー報告

柳澤広報委員長から資料に基づき、JSAF 新ホームページ開設ならびにスポンサーバナーについて報告があった。

JSAF 新ホームページは、リニューアルオープンから 2 ヶ月が経過した。今後もさらに発展させていくために、より使いやすいホームページを目指して修正をする。①スポンサーの露出について、トップページデザイン変更をする。さらにスポンサー企業の活動を紹介するページを作成し誘導する設定にする。②加盟・特別加盟団体の紹介をトップページにわかりやすいボタンを設置し、アクセスの簡易化を図る。③ホームページをさらに活用していただく施策として、会員・非会員でも利用できる「J-Sailors (仮称)」を設置して、レース告知やレポートを書き込んでいただける機能を新設するとの発言があった。

天辻理事から、スポンサーバナーの大小でランク付けをしているのか質問があった。

柳澤委員長から、金額で対応させている。今後もスポンサーサービスを強化するために会員システムを利用してメルマガ配信も考慮しているとの回答があった。

斎藤常務理事から、東京オリンピック・パラリンピックの英語版作成は考慮されているのか質問があった。

柳澤委員長から、東京オリンピック準備委員会のページで英語版を用意されたほうが良いとの発言があった。

鈴木専務理事から、各委員会で掲載している内容は、WEB マスターに一任しているがアップする内容によっては JSAF 事務局宛にもアップする前に送信いただきたいとの発言があった。

中澤理事から、JSAF ホームページのアクセス数を把握することは費用対効果からも必要なことから、次回理事会にご報告いただきたいとの発言があった。

#### 7) 危機管理ワーキンググループ

坂谷理事から、安全・危機管理ワーキンググループ報告があった。現在、艇オーナーならびにスキッパー、主催団体が責任を問われるケースについて整理している。次回には主催者責任でカバーできる範囲を明確に理事会へ報告したいとの発言があった。

#### 8) ワールドユニバーシティマッチレーシングチャンピオンシップ報告

中澤理事から資料に基づき、第 7 回ワールドユニバーシティマッチレーシングチャンピオンシップの報告があった。

2014年6月28日～7月5日、イタリア・トレンティーノ州レドロ湖で開催された「第7回ワールドユニバーシティマッチレーシングチャンピオンシップ」に日本代表として参加した。競技艇は J22、コースはソーセージコース、マリーナ・宿舎ともいい環境だった。最後までメダル争いをしてしたが総合 4 位に終わった。次回 2016 年はオーストラリア・パース開催予定で次回以降も参加させたい。また、日本開催も検討したいとの発言があった。

#### 9) 外洋艇推進グループ報告

坂谷常務理事から資料に基づき、外洋艇推進グループ活動報告があった。

大島理事から資料に基づき、第 55 回パールレースの報告があった。参加 48 艇 (IRC 部門 44 艇、ダブルハンド部門 4 艇)、乗員 365 名の参加を得て成功裏に終了したとの発言があった。

坂谷常務理事から資料に基づき、IRC 計測関係 (申請費用) 料金改定の報告があった。一昨年からのポンドの為替が大幅に変化したことにより、2015 年から IRC 計測料金改定を

する。また、8月31日末までのIRC申請推移とIRC証書発行実績について発言があった。

#### 10) インターナショナル・メジャラー (IM) 推薦の件

名方ODC計測委員長から資料に基づき、インターナショナル・メジャラー (IM) 推薦について報告があった。2014年度に提出されたIM推薦申請について、IM候補者推薦委員会として、東島和幸氏 (日本470協会) を決定した。8月27日常任委員会で承認、8月30日ISAFで受理されたとの発言があった。

#### 11) 2014 環境コンテスト報告

永井環境委員長から資料に基づき、2014環境コンテストの報告があった。

2014環境コンテストは、応募総数28件の内、「未来に残したいきれいな海のカードで10年後の自分にメッセージを書こう」、「ボート天国 in 小樽」、「陸から守ろう！きれいな海を！」の3件を採択した。次号J-SAILINGで報告する。

また、全日本補助金の原資であるヤンマー社の寄付金については現在調整中である。今後はレース委員会と相談しながら進める。JSAFホームページ上の環境委員会内でもスポンサー紹介や応募を行う予定であるとの発言があった。

#### 12) 2014 レーザー4.7 ユースワールド結果報告

鈴木専務理事から資料に基づき、2014 レーザー4.7 ユースワールドの結果報告があった。25ヶ国、103名を集めて成功裏に終了したとの発言があった。

#### 13) 平成26年度メンバー登録数 (6月30日現在)

鈴木常務理事/事務局長から資料に基づき、JSAFメンバー登録数実績について報告があった。平成26年度メンバー登録数は総合計8,646名となった。本年度目標11,000名として各水域で努力していただきたいとの発言があった。

坂谷理事から、資料が増加兆候にあるのか等の確認が困難なことから検討していただきたいとの発言があった。

#### 14) 平成26年度定時評議員会議事録 (案) 及び平成26年度通常第1回理事会議事録 (案)

鈴木専務理事/事務局長から資料に基づき、平成26年度定時評議員会議事録 (案) 及び平成26年度通常第1回理事会議事録 (案) について報告があった。

#### 15) その他

- ① 中川副会長から、長崎国体チャイルドルームについて報告があった。
- ② 細川事業開発副委員長から、長崎国体に出展するとの報告があった。

- ③ 平松理事から、全日本外洋ヨット選手権大会（ジャパンカップ）は台風 11 号の影響で初日がキャンセルになったが、参加 10 艇、8 レース消化、優勝艇はカラスで成功裏に終了した。今後のジャパンカップについては検討会で方針を決定していくとの発言があった。
- ④ 相澤理事から、東日本大震災から 2 年半経過して、岩手県ハーバーが復旧してきた。本年は松島で A 級ディンギー全日本を開催したとの発言があった。
- ⑤ 末木理事から、国体水域からの出場選手が減少している。ふるさと制度等を利用して参加していただきたいとの発言があった。
- ⑥ 森理事から、
- ⑦ 高間理事会ら、福井国体について協力依頼があった。
- ⑧ 馬場理事から、全日本ミドルボート選手権大会の報告があった。今後はジャパンカップ同時開催も視野に入れて検討したいとの発言があった。
- ⑨ 山本理事から、JSAF ホームページリニューアルの賞賛があった。
- ⑩ 岡村理事から、九州でのイベント（唐津 4.7 ユースワールド、タモリカップ福岡、長崎国体）について報告があった。
- ⑪ 剥岩理事から、火山めぐりレースでの JSAF 非会員取扱いならびにミシマカップ中止について報告があった。
- ⑫ 鈴木専務理事から資料に基づき、「東京湾大感謝祭」について報告があった。
- ⑬ 鈴木専務理事から、現在アルバイトの篠遠満里子氏を 10 月 1 日から正職員として採用する。
- ⑭ 鈴木専務理事から、JSAF 定款では、理事会・評議員会の委任状は一切できないことから出席を基本としていただきたいとの発言があった。

平成 26 年度通常（第 2 回）理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 26 年 9 月 6 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 平 松 隆

議事録署名人 理 事 岡 村 勝 美

副 会 長 森 山 雄 一

副 会 長 中 川 千 鶴 子

専 務 理 事 鈴 木 修

常 務 理 事 斎 藤 涉

常 務 理 事 坂 谷 定 生

監 事 斉 藤 威

監 事 児 玉 萬 平

監 事 上 野 保